

平成26年度学校関係者評価 全方位的な点検・評価 項目の分析と考察

※肯定的評価(Aとても思う + B思う)と否定的評価(Cあまり思わない + D思わない)及び、E分からないに分けてその割合を比較する。

I. 重点目標への取り組み

- 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」
授業の内容はよく理解できるという生徒の割合75%以上を目指す。
- 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」
地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す。
- 「部活動等を充実させ、生徒の個性の伸長を図り、充実感を更に高める。」
部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す。

重点目標への取り組み	分析結果	評価・課題及び改善方策
・前年度の学校評価等を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している。	肯定的評価は100%である。	教職員は高いプラス結果である。地域は75%が肯定的な評価、保護者は昨年度より6ポイント上昇の72%の評価であった。
・教職員は重点目標に沿った取り組みを進めている。	肯定的評価は100%である。	保護者や地域への広報活動等をさらに推進し、周知していくことが課題である。 <改善策> 具体的な取り組みを保護者会、各種便り、ホームページ等多様な方法で保護者等に周知徹底していくよう広報活動を充実させていく。
・保護者・地域の方々へ十分に重点目標を説明している。	肯定的評価は100%である。	

II. 地域とともに子どもを育てる教育

広報活動・情報提供		
・保護者や地域の方に対して、情報を積極的に発信している。	肯定的評価は100%である。	教職員の評価はおおむね良好な結果である。
保護者・地域連携		地域人材や施設等の活用に関しては、保護者、地域共にわからない率(E率)がそれぞれ20%、35%と高く、学校での教育活動が周知されていないという課題が残る。
・地域の人材や施設等の活用が進められている。	肯定的評価は88%である。	情報提供に関しては、保護者・地域のアンケート結果から、保護者、地域とともに学年だより(プリント)による発信はかなりの高評価を得ている。ホームページによる発信に関しては、前年度より評価が上がっているものの、今後ますます充実させるための工夫・改善が必要である。 <改善策>
・保護者の相談等にていねいに対応している。	肯定的評価が100%である。	
学校協議会		特色ある推進事業や学校支援コーディネーター事業などをうまく利用して、地域の人材を計画的に活用していく。職業講話、職場体験、朝礼での地域の方からのお話しなど、地域の人材を活用している状況を地域保護者へ周知できるように広報活動を推進する。
・学校協議会の活動が活発に行われている。	肯定的評価は80%である。	ふれあい挨拶デーの取り組みは、学び舎として小学校との連携のもと今後も継続実施する。同時に地域とともに子どもたちを見守り、育していく体制を今後も深める。
PTA活動		情報の提供においては、今後も学校だより・学年だよりを充実させていく。ホームページについてはさらに工夫・改善を行っていく。
・PTA活動が活発に行われている。	肯定的評価は94%である。	
家庭教育支援		
・家庭教育の充実に向け、必要な情報を提供している。	肯定的評価は87%である。	

III. 未来を担う子どもを育てる教育

教育課程			
【教育課程の編成・管理】			
・学習指導要領の趣旨を活かし教育課程を編成している。	肯定的評価は100%である。		
・教育課程の管理が適切に行われている。	肯定的評価は94%である。		
【授業時数等】			
・生徒の実態に即した生活時程になっている。	肯定的評価は94%である。	今年度も高いプラス結果である。	
・各教科等の年間授業時数の確保に努めている。	肯定的評価は94%である。	各教科では世田谷区教育要領に基づいた年間授業計画を作成し、実践してきた。また、授業時間の確保も努力して行ってきた。	
教育目標等			
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点は生徒の実態、保護者等の願いを活かしている。	肯定的評価は88%である。	<改善策> 来年度も世田谷区教育要領の趣旨に基づいた教育課程を編成し推進していく。	
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点を共通理解し、保護者・地域への周知がなされている。	肯定的評価は88%である。	授業時数の確保は良好な結果であるが、来年度も授業時数の確保を行っていく。 学校だより、保護者会、HP等での広報活動をさらに工夫していく。	

学習指導			
	【指導計画】		
・指導目標・指導内容を明確にして指導計画を作成している。	肯定的評価は94%である。		おおむね良好な結果である。体験的・問題解決的学習については、昨年度より9ポイント増加し、個々の教員が授業を工夫しながら進めている様子が見受けられる。、教科「日本語」については、各学年工夫しながら進めているが、教材の準備や指導方法など課題は大きい。少人数授業は、書く・話すなど作業的な授業や、発展的な内容を指導するときには有効であるが、授業が複数の教員によるため、評価が難しいなどの課題もある。 保護者アンケートの「通知表で評価されたことは納得できる」の肯定的評価結果は昨年度とほぼ同じ71%となつた。 ＜改善策＞
・年間指導計画等に基づいて計画的な指導がなされている。	肯定的評価は87%である。		世田谷区教育要領に基づき、言語活動を重視した指導内容の作成を行うと同時に体験的・問題解決的な学習をさらに積極的に取り入れ実施できるように今後も授業改善を図っていく。
【指導の工夫】			少人数授業や個に応じた指導について、授業改善を行っていくことや放課後の時間等を活用し個別対応を行っていく。
・少人数教育の成果がみられている。	肯定的評価は59%である。		教科「日本語」に関しては、指導の充実を図るため今後も指導法の研究を組織的に行い、研修等計画的に実施し、共通理解・充実を学年体制・全校体制で行う。また、オリジナル資料の収集等推進し「日本語」の授業の充実を図っていく。また、今後も授業改善を推進し、生徒の学力の向上を図っていく。
・個に応じた指導が適切に行われている。	肯定的評価は87%である。		評価評定については今後も保護者会や学年だより等で詳しく説明し保護者・生徒への理解を図っていく。
・体験的・問題解決的な学習が進められている。	肯定的評価は81%である。		
・基礎的・基本的な内容の定着が図られている。	肯定的評価は94%である。		
・世田谷区教育要領に基づいて指導の充実を図っている。	肯定的評価は89%である。		
【評価】			
・指導と評価の一体化がなされている。	肯定的評価は88%である。		
・評価規準を明確にして評価している。	肯定的評価は94%である。		
【教材・教具、施設の活用】			
・教材教具が整備され、積極的に活用されている。	肯定的評価は88%である。		
・学校図書館は有効に活用されている。	肯定的評価は94%である。		
・施設・設備は有効に活用されている。	肯定的評価は93%である。		
【教科・日本語】			
・教科「日本語」のねらいについて、教職員の共通理解がなされている。	肯定的評価は53%である。		
・教科「日本語」の充実に取り組んでいる。	肯定的評価は64%である。		
生活指導			「社会のルールを守ることについての指導が行われているか」という質問に対して、保護者が89%、生徒は81%が肯定的な評価であった。細部にわたる指導ラインの共通理解を図るとともに、保護者との連絡・連携をさらに深めていく必要がある。 「保護者からの相談に誠実に対応している」という質問に対して、教職員の肯定的評価は100%なのに対して、保護者は73%と意識に開きがある。 ＜改善策＞
・生活指導について組織的な取り組みがなされている。	肯定的評価は81%である。		今後も、年度当初に生活指導マニュアルに基づいて、きまりや対応の仕方などの共通理解を図り、またそれ以外の不明な点があったときは、確認しながら進めていく。これらのことにより、情報の共有化・共通理解を推進し、指導体制を強化する。保護者に対しては、今以上に報告・連絡・相談を密にとり、共に子どもたちを見守り、育てていく。
・学校のきまりや基本的な生活のルールが教職員に共通理解されている。	肯定的評価は71%である。		
・生徒の規範意識や社会の一員としての自覚を高めている。	肯定的評価は100%である。		
・保護者等からの相談に誠実に対応している。	肯定的評価は100%である。		
・スクールカウンセラーの活用や相談室等との連携が図られている。	肯定的評価は94%である。		
道徳			
・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は69%である。		道徳の評価では、「各教科との関連を図った指導、道徳的心情・判断力・実践力が育っているか」の項目の肯定的評価および、特別活動や総合的な学習の時間の各項目において昨年度より改善が見られる。 ＜改善策＞
・各教科等との関連を図った指導がなされている。	肯定的評価は81%である。		道徳の年間指導計画を本校の生徒の実態に即したものとなるように今後も計画の見直しを図る。
・道徳的心情、判断力、実践力が育っている。	肯定的評価は94%である。		道徳の授業だけではなく、各教科において意図的に授業で関連させた指導を取り入れたり、学校行事等を通して道徳的心情を高める。
特別活動			特別活動の委員会活動等では、今後も生徒自ら主体的に考えさせ、企画立案・実践できるよう指導する。
・年間計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は100%である。		生徒の自主的・実践的な態度を今後も育成するため、実行委員会・学級会・班会議などを通して、自主的に考える時間を多く設定し、今後も自主的・実践的態度を育成する。
・年間計画に基づいた自主的な運営がなされている。	肯定的評価は100%である。		校外学習等の体験学習を通して、問題解決能力や意思決定能力、情報活用能力の向上を培わせる。
・生徒の自主的・実践的な態度が育成されている。	肯定的評価は100%である。		
総合的な学習の時間			
・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は81%である。		
・体験等を通して生徒の問題解決能力が育っている。	肯定的評価は88%である。		

学校行事		
・無理なく計画的に学校行事が実施されている。	肯定的評価は53%である。	
・学校行事の工夫・改善が進められている。	肯定的評価は80%である。	
健康・体力		
・体力の向上に取り組んでいる。	肯定的評価は100%である。	
・食育の推進に計画的に取り組んでいる。	肯定的評価は76%である。	
・健康教育について保護者の理解と協力が得られている。	肯定的評価は88%である。	
特色ある教育		
・生徒や地域、学校の実態に応じた取り組みとなっている。	肯定的評価は100%である。	
・学校間連携（幼・小・中・高）を積極的に行っている。	肯定的評価は94%である。	
・学校図書館の活用や種々の場面で国語力の向上を図っている。	肯定的評価は88%である。	
・学校エコライフ活動の取り組みを図っている。	肯定的評価は75%である。	
キャリア教育・進路指導		
・職場体験が効果的に実施されている。	肯定的評価は100%である。	
・キャリア教育・進路指導について組織的な取り組みがされている。	肯定的評価は93%である。	
・生徒、保護者に十分に情報を提供している。	肯定的評価は100%である。	
特別支援教育		
・校内体制が整備され校内委員会は機能している。	肯定的評価は81%である。	
・教育相談室や関係機関との連携が行われている。	肯定的評価は81%である。	
部活動		
・部活動は活発に行われている。	肯定的評価は100%である。	
・部活動の実施体制は適切である。	肯定的評価は88%である。	

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくり

学校運営・学校経営		
・校長の経営方針は明確に示されている。	肯定的評価は100%である。	
・校長のリーダーシップは発揮されている。	肯定的評価は93%である。	
・教職員一人一人が主体的、組織的に教育活動を行っている。	肯定的評価は92%である。	
・校務分掌は適切に分担され、各分掌の取組内容等が明確で適切に機能している。	肯定的評価は85%である。	
・教職員の情報共有が適切になされている。	肯定的評価は85%である。	
・校務の情報化が進められている。	肯定的評価は86%である。	
学校評価		
・学校評価は適切に実施されている。	肯定的評価は93%である。	
教職員		
・問題意識や悩みを気軽に話し合える職場となっている。	肯定的評価は93%である。	
・教職員の服務規律への自覚が高く、かつ守られている。	肯定的評価は93%である。	
研究・研修		
・校内研究会・研修会が充実し、日々の実践に役立っている。	肯定的評価は78%である。	

保健管理			教職員の肯定的評価は良好な結果である。健康診断や健康相談により、生徒自らが健康状態を把握し、健康な生活を送れるようになってきている。 <改善策> 今後も、保健便り、保健委員会ニュースなどにより、健康な生活に対する意識を高めていく。
安全管理	・生徒の実態を踏まえた計画的・組織的な健康指導が行われている。	肯定的評価は100%である。	
	・日常の健康観察や健康診断等が適切に行われている。	肯定的評価は100%である。	
出納・経理			
文書・情報管理	・事故・災害等に迅速に対応できる体制が整備されている。	肯定的評価は93%である。	
	・避難訓練・防災訓練等が適切に行われている。	肯定的評価は100%である。	教職員の肯定的評価は良好な結果である。保護者のアンケートの「本校の施設の安全性は確保されている」の項目の肯定的評価は54%と満足できる評価ではない。災害時の集団下校訓練の改善と、本校の施設の安全性について積極的に周知していくことが今後の課題である。 <改善策> 施設設備は、各点検において異常が見られるところは即応的に修繕を完了してきた。現在の点検で修繕を要すると報告されるものは軽微なものだけである。また、施設設備等の原因である事故や怪我は1件も起きていない。来年度から2年間は仮設校舎で過ごすことになるが、施設設備の安全性については、今まで以上に定期的にたより等で周知していく。 避難訓練や安全指導の内容や活動、地域と連携した訓練の実施について今後も工夫・継続して行い、保護者・地域への広報活動もさらに充実させていく。 災害時の対応については今後も改善を図っていく。
文書・情報管理	・予算の執行が適切に行われ、点検がなされている。	肯定的評価は100%である。	本項目は100%であるべきであり、日常から教職員の意識の向上を徹底的に行う。今後とも校内予算を適切に執行するために、校内での連携を図っていく。
	・私費会計の徴収・会計処理が適正に行われている。	肯定的評価は100%である。	

V. 数値目標の達成状況

数値目標	分析と課題
1. 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」 授業の内容はよく理解できるという生徒の割合75%以上を目指す。	生徒は「授業の内容はよく理解できる」という項目に対して、85% (A26%, B59%)と評価している。昨年度より3ポイント増である。目標の75%を大きく上回った。今年度も各学年で肯定的評価が75%を超えた。 保護者への「本校では、子どもにとってわかりやすい授業をしている」の評価においては、昨年度68%、今年度2ポイント微増の70%の充足度である。 <改善策>引き続き校内研修・授業研究等を通して、授業改善及び授業規律の確立に努める。基礎的・基本的事項の確実な定着を図り、生徒の授業内容が理解できるという実感が生徒から保護者へ伝わるように今後も継続して努力していくとともに、保護者がじかに授業を見ることが1番大切なことなので、授業参観者数が増加する工夫を行っていく。
2. 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」 地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す。	「本校は地域の活動や行事によく協力している。」の保護者の肯定的評価は80%で、昨年度と同じ高い評価である。また、「学校は地域の活動や行事によく協力している」の地域の方の肯定的評価は80%と昨年度とほぼ同じ高評価をいただき、目標を上回る結果となった。 <改善策> 地域行事の予定を生徒・保護者へ周知するため、地域行事予定表を生徒全員に配布する。また、地域行事等のボランティア活動への参加している様子など広報活動を積極的に行い保護者・地域の方への周知を徹底していく。
3. 「部活動等を充実させ、生徒の個性の伸長を図り、充実感を更に高める。」 部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す。	生徒の「学校全体で、部活動は充実している」の項目では79%の肯定的評価となった。昨年度より5ポイント上昇し、目標の75%を達成した。 保護者への「本校は、学校全体で部活動を活発にしようとしている」の項目では63%の肯定的評価で、昨年度の64%に比べてやや微減となった。 「部活動の回数や時間はちょうどいい」の項目は、保護者66%、生徒68%と、昨年とほぼ変わらない。「入りたい部活動がある」の項目では、保護者58%と昨年度より5ポイント増、生徒72%の肯定的評価で昨年度とほぼ同じ値となった。 <改善策> 部活動の練習内容を今後もさらに検討し、限られた時間のなかで密度の濃い練習計画を作成し、部活動をさらに充実させていく。途中退部した生徒が別の部活動に入り易くなるように工夫・改善を図っていく。施設・設備の安全性の確保と充実を今後も促進する。本校の学校規模では、部活動をこれ以上開設していくことは困難である。